



冷たいものを食べると、頭が痛くなるのはなぜ

冷たさの信号が、神経を伝わって脳にとどくため

頭痛を起こす原因はいろいろあります。頭の中で痛みを感じるのは、太い血管や神経などの一部で、そこがしげきされると、頭痛が起こるのです。

胃や食道にきている神経は、背骨にある、せきずいという太い神経の束とつながっていて、それが脳まで続いています。

冷たいものを食べて、胃が急に冷やされると、冷たさの信号が、神経を伝わって脳にとどき、そこで、痛みとして感じられるのだと考えられています。

かぜをひくと、頭が痛くなるのは

かぜをひくのは、小さな小さな生き物のかぜのウイルスが、鼻やのど、肺など、呼吸器官の、湿ったうすい皮ふのねんまくにつくからです。

そうになると、体が、病気をなおそうとするはたらきを始め、その部分が、はれて赤くなります。はれて赤くなったところでは、ウイルスの死がいやウイルスの出す毒などが、血液の中に吸収されます。その血液が、体内をまわって脳へ行き、脳の中の体温を、上げるはたらきを調節する部分をしげきして、熱を出したり、脳の中の痛みを感ずる神経をしげきして、頭痛を起こしたりするのです。（監修・保志 宏）

